

第二次スクリーニング計画の作成

第二次スクリーニングの計画的な実施に向け、今後の調査方針や留意点等を取りまとめ、第二次スクリーニングの実施計画の立案を行う。

今回の調査結果より、図 3.1 に示す優先評価で B2 と判定された。

第二次スクリーニングの実施に向けては、図 3.2 に示す優先度選定フローが国土交通省から提示されており、今回の調査結果より、[すべり崩壊・すべりによる変形][擁壁倒壊・擁壁変形]のいずれも経過観察と判定され、今後は『経過観察』で変状の進捗等を観察していくことが望ましい。

経過観察の内容および頻度については、表 3.1 より、青葉台、千福が丘地区の優先度評価はランク B2 で「盛土下の不安定な土層有」に該当しない盛土なので、『頻度レベル：中』に該当する。

経過観察の実施頻度は、表 3.2 で示す 『定期点検は 5 年、異常時点検は適宜』実施する。

「定期点検」「異常時点検」の内容については、表 3.3 に示す。

表 3.1 経過観察頻度のレベルの定義、盛土の分類、優先度ランクの関係

経過観察 頻度レベル	定義	盛土の分類	優先度ランク (図 1.2、表 1.1 参照)
高	変状若しくは湧水が認められるため、「高」頻度で経過観察が必要な盛土	変状若しくは湧水が認められる盛土 ※滑動崩落を示唆する変状は「早期に第二次スクリーニング」を行う必要があるため対象外	A1・A4 (「変状有」若しくは「地下水有」に該当する盛土)
	変状及び湧水が認められないが、変状及び湧水を除く優先度評価指標のいずれかに該当するため、「高」頻度で経過観察が必要な盛土	変状及び湧水が認められないが、以下の優先度評価指標のいずれかに該当する盛土 ・盛土下の不安定な土層有 ・盛土および擁壁の形状と構造が非標準	A1・A4 (「変状有」若しくは「地下水有」に該当しない盛土) A2・A3 B1・B2 (「盛土下の不安定な土層有」に該当する盛土)
中	造成年代と変動確率を除く、全ての優先度評価指標が該当しないため、「中」程度の頻度で経過観察が必要な盛土	造成年代と変動確率を除く、全ての優先度評価指標に該当しない盛土	B1・B2 (「盛土下の不安定な土層有」に該当しない盛土) B3・B4・C

(出典：大規模盛土造成地の経過観察マニュアル P. 7)

表 3.2 経過観察頻度レベルに応じた実施頻度

経過観察 頻度レベル	定期点検	異常時点検
高	1 年毎	実施
中	5 年毎	実施

(出典：大規模盛土造成地の経過観察マニュアル P. 9)

表 3.3 経過観察の種別及び点検内容

種別	点検内容
定期点検	盛土全体を対象とし、新たな変状・湧水の発見や、過去に確認された変状・湧水の経時変化、盛土および擁壁の形状と構造の変化を確認する点検で、第二次スクリーニング計画の現地踏査に相当する。 第二次スクリーニングによる安全性の確認が完了した盛土を除く、全ての大規模盛土造成地で実施する。
異常時点検	地震時に盛土全体を確認する点検（必要に応じて降雨時も実施）。 点検が必要な地震及び降雨の規模は、地方公共団体で災害対策本部が設置される震度・降雨量を考慮して設定する。 災害規模を考慮し、必要に応じて全ての大規模盛土造成地で実施する。なお、効率的な点検の実施に向けて、被災宅地危険度判定との連携を検討してもよい。

（出典：大規模盛土造成地の経過観察マニュアル P. 8）

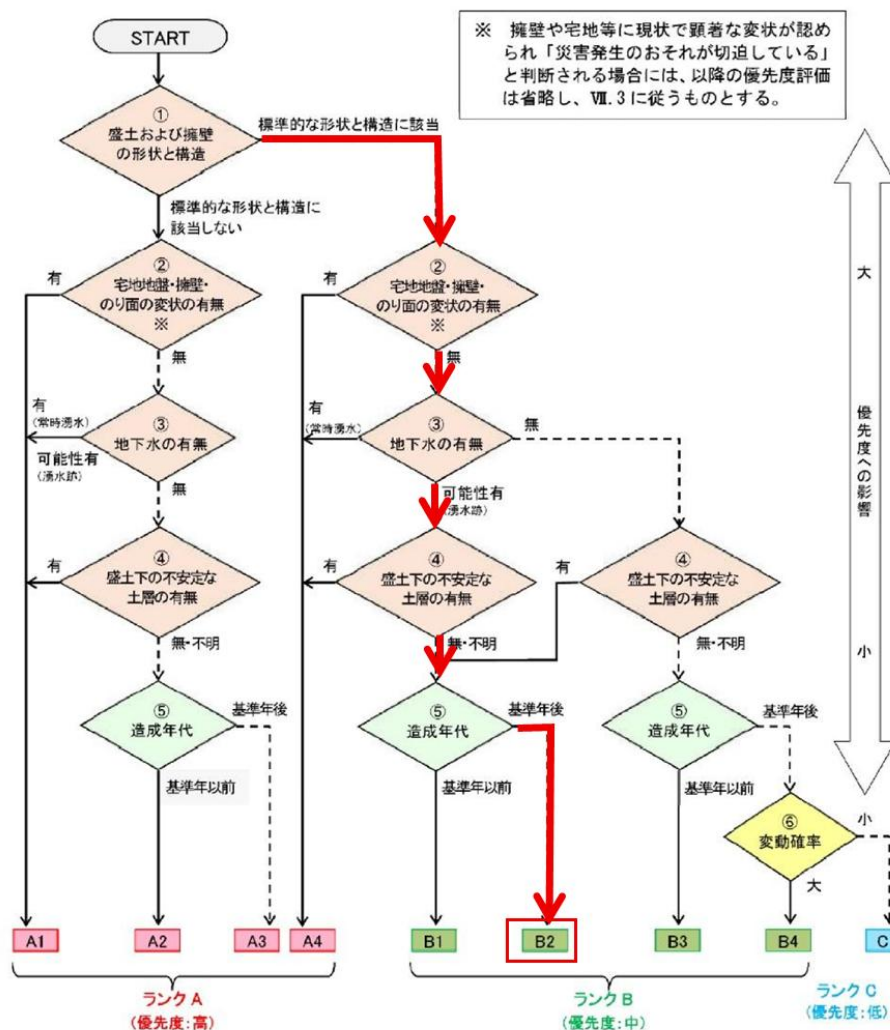
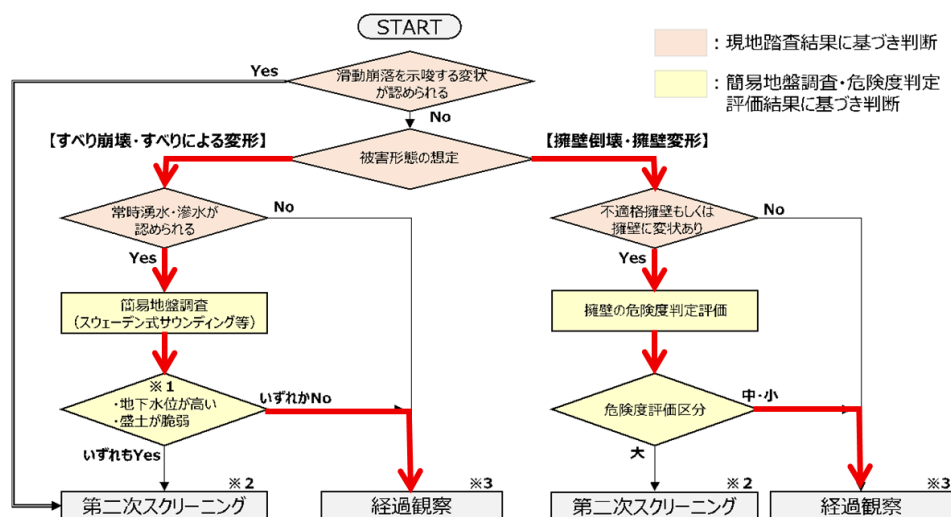


図 3.1 優先度評価フロー



- ※1 地下水位が高い；地下水高が盛土厚の1/2以上を目安とする。
盛土が脆弱；砂質土 $N < 10$ 、粘性土 $N < 5$ を目安とする。
- ※2 盛土は排水施設の機能低下等により経時的に安定性が低下することがあるため、第二次スクリーニングの結果、滑動崩落のおそれが小さいと判断された場合も経過観察を継続することが望ましい。
- ※3 経過観察の結果、異常が認められた場合は、改めて第二次スクリーニングの実施を検討する。
経過観察の着目点としては、変状の進行（クラック幅の拡大等）、新たな湧水や変状の発見、他事業における変状の補修実績などが挙げられる。

図 3.2 優先度の高い盛土を選定するフロー